

事後評価書

箇所名	中南勢・中南勢2期		事業名	農業農村整備事業	課名	農業基盤整備課 (松阪農林事務所)																
事業概要	工期 (下段当初)	平成11年度～平成28年度	全体事業費 (下段当初)	7,794 百万円 (負担率：国50%：県35%：他15%)																		
		平成11年度～平成26年度		7,703 百万円																		
事業目的及び内容		<p>(事業目的) 本地域は三重県の中南勢に位置し、都市近郊ではハウスイチゴ、花き、しめじ栽培、中山間地域では柿、みかん、いせいもの栽培、山村地域では茶、山菜の栽培が行われています。 また、肉用牛の飼育が増加しており、「松阪牛」ブランドの中心的地域として高い評価を受けています。しかしながら、これらの生産団地を連結する道路網が未整備のため、交通渋滞を引き起こし、交通量は飽和状態となっていました。このため、広域農道を建設し、道路網の確立を図ることで、農産物流通と農業生産活動の活性化を目的に道路を整備したものです。</p> <p>(事業内容)</p> <table border="0"> <tr> <td>農道整備</td> <td>L=10,996m</td> </tr> <tr> <td>中南勢</td> <td>4,124m</td> </tr> <tr> <td>中南勢2期</td> <td>6,872m</td> </tr> </table>					農道整備	L=10,996m	中南勢	4,124m	中南勢2期	6,872m										
農道整備	L=10,996m																					
中南勢	4,124m																					
中南勢2期	6,872m																					
1・事業の効果		<p>「直接的効果」 <費用便益分析></p> <table border="1"> <tr> <td colspan="4">平成23年度 計画変更時の経済効果 (単位：百万円)</td> </tr> <tr> <td>便益 (現在価値合計)</td> <td>/</td> <td>費用 (現在価値合計)</td> <td>= 23,133 / 13,226 = 1.75</td> </tr> <tr> <td colspan="4">令和4年度 事後評価時の経済効果</td> </tr> <tr> <td>便益 (現在価値合計)</td> <td>/</td> <td>費用 (現在価値合計)</td> <td>= 37,628 / 24,595 = 1.53</td> </tr> </table> <p>○事後評価時の各便益について 農林水産省農村振興局整備部監修の「効果算定マニュアル」により「費用便益分析」を行っています。 「食料の安定供給確保に関する効果」</p> <ul style="list-style-type: none"> └「品質向上効果」 道路の舗装を行うことで、農産物運搬時の品質を守ることによる効果 └「維持管理費節減効果」 道路の新設・拡幅による、新規に発生する維持管理に要する経費でマイナス効果 └「営農にかかる走行経費節減効果」 道路が拡幅・舗装整備されることで、農産物を運ぶ車両の大型化等により運搬の効率が向上し、走行経費の低減や人件費が削減される効果 <p>「農村の振興に関する効果」</p> <ul style="list-style-type: none"> └「一般交通等経費節減効果」 道路が整備されたことで一般交通車両の車両経費及び人件費が削減される効果 <p>●品質向上効果・・・効果算定の際に使用する生産単価が上がったことによる増加 ●維持管理費節減効果・・・燃料代等の機械経費や人件費が上がったことによる増加 ●営農走行経費節減効果・・・燃料代等の走行経費や人件費が上がったことによる増加 ●一般交通等経費節減効果・・・燃料代等の走行経費や人件費が上がったことによる増加 ●間接的効果 ヴィソン内の産直市場への農産物運搬、ウッドピア松阪への木材運搬において、広域農道を利用することで運搬時間が短縮されるため走行経費の節減効果も得られている。</p>					平成23年度 計画変更時の経済効果 (単位：百万円)				便益 (現在価値合計)	/	費用 (現在価値合計)	= 23,133 / 13,226 = 1.75	令和4年度 事後評価時の経済効果				便益 (現在価値合計)	/	費用 (現在価値合計)	= 37,628 / 24,595 = 1.53
平成23年度 計画変更時の経済効果 (単位：百万円)																						
便益 (現在価値合計)	/	費用 (現在価値合計)	= 23,133 / 13,226 = 1.75																			
令和4年度 事後評価時の経済効果																						
便益 (現在価値合計)	/	費用 (現在価値合計)	= 37,628 / 24,595 = 1.53																			

2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

トンネル工事等において、現場から発生した岩を現地で砕き砕石にして道路盛土に利用や掘削残土を近隣の田の嵩上げに利用、またトンネルからの湧水を補給的な農業用水として利用できる構造としたことより、建設廃棄物の削減につなげたとともに、土砂等の運搬を減らすことで、環境負荷の軽減に努めました。

アンケートの結果においても、自然環境面への影響については、農道の悪い影響の中で交通事故などの危険性の回答が大半で、「自然環境が悪くなった」と「景観が悪くなった」は少数であり、大きく環境への影響は及ぼしていないと考えられます。

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

<農家戸数>

松阪管内の農家戸数 平成23年度時点・・・6,391戸 令和4年度時点・・・3,410戸

松阪市の農家戸数減少率(46.1%)は県全体の減少率(45.2%)と近く、多気町(42.1%)は県全体より低い減少率となっています。一方、明和町(51.5%)、大台町(56.4%)は県全体より高い減少率となっています。いずれも農家戸数の減少は避けられない状況となっています。

<耕地面積及び水稲・野菜作付状況>

松阪管内の耕地面積の推移ですが、平成23年度時点で12,172haから令和4年度には11,641haと△4%減少しました。県全体の△6.0%減少と比べると減少率は低い傾向です。

市町別の減少率は、松阪市、明和町では低く、山間部が多い多気町、大台町は高い傾向にあります。

耕地利用と水稲の関係については、平成23年度から令和4年度の管内の作付面積が△1,067ha(△16.3%)減少しました。一方、県全体の、△4,000ha(△13.2%)減少と比べると減少率は高いです。これは、多気町や大台町の山間部に存在する谷地田を耕作する農家が減少し耕作放棄地が増加したことが一因でないかと考えます。

松阪管内で生産されている主要野菜などについては、多気町ではキャベツ、白菜、イチゴとも作付が増えています。管内全体のイチゴについては31.2%と県内の1/3弱のシェアを維持しています。

4・県民の意見

<アンケート方法>

・広域農道(ビーフロード)の各地区周辺自治会対象に実施

実施エリア 中南勢地区・・・明和町池村自治会【対象数 81戸】

中南勢2期地区・・・松阪市山室自治会【対象数 319戸】

・・・多気町丹生自治会【対象数 262戸】

・・・多気町長谷自治会【対象数 13戸】計：675戸

回答数：415戸(率：61.5%)

<利用状況と効果について>

広域農道の利用状況については、回答いただいた406戸のうち、363戸(89%)の方が利用しており、「買い物」「通勤・通学」との回答が71%と、広域農道が地域住民にとって日常生活道路として十分活用されていることが確認できました。

また、広域農道が整備されたことで「農地への通作や農産物の輸送が便利になった」「通勤・通学、レジャーや娯楽施設への走行距離や時間が短縮された」「緊急車両等の走行時間が短縮され、緊急時の安全性が向上した」など全体の93%の方から効果があったと回答がありました。

<農業面の効果>

農業をされている方からは、通作や出荷にかかる交通が便利になったが29%、農作業の機械の大型化が可能になったが29%との回答があり、耕作の営農の継続意欲が高まった、担い手に営農を頼みやすくなったと34%の方から回答があり、農業面において効果があったことを確認できました。

5・再評価の経緯	
再評価は実施していない	
6・今後の課題等	
<p><地域の課題> 広域農道が整備されたことで、交通事故の発生を危惧した交通安全施設等の設置や道路沿いの草や枝の伐採など道路維持管理に関する意見がありました。また、今後、施設の老朽化に伴い修繕が必要となってきます。</p> <p><今後の対応> 現在、広域農道は、区間毎で松阪市、多気町、明和町が維持管理を行っておりますので情報を共有していくとともに、今後の維持管理等において将来を見据えた事業制度の情報提供を行っていきます。</p>	

評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。